



### 主な写真撮影場所

表紙	鳥羽市国崎町
P 2・3	鳥羽市答志島
P 4・5	志摩市和具
P 6・7	鳥羽市・志摩市
P 8・9	鳥羽市・志摩市
P10・11	鳥羽市国崎町
P12・13	鳥羽市菅島・ 志摩市和具ほか
P14・15	鳥羽市・志摩市
P16・17	鳥羽市国崎町・ 答志島ほか
P18・19	志摩市和具
P24~29	海の博物館々蔵品
P30・31	鳥羽市国崎町ほか
P32・33	鳥羽市国崎町・ 海の博物館々蔵品
P38・39	志摩市布施田
P46・47	鳥羽市国崎町
P50・51	志摩市片田
P53~57	各ページに記載
裏表紙	鳥羽市相差町

## あとがき

“海女”は世界広しといえど、日本列島と韓国・済州島にしか存在しません。

それも女性が、習練し身につけた独特の潜水技術のほか、裸一貫に簡単な道具のみで、暮らしを立てる生業を営んでいます。また海女は自然なる海への畏怖と感謝から独自の信仰や祭祀をもっています。志摩半島では伊勢神宮に神饌を献上する伝統もいまだにつづいています。その総体を海女文化と呼んで過言でないでしょう。

2007年、済州島から“海女”を日韓連携して無形世界遺産に登録しようと呼びかけがありました。この呼びかけに応じて、志摩半島でも活動が始まっています。

しかし、いま海女は高齢化、後継者不足そしてなによりも資源のひどい減少に悩んでいます。アワビ、サザエなどの餌となる海藻の減退、磯焼けといわれる浅い海の荒廃がつづいています。海女文化の存続は、過去の伝統を主張するだけではできません。なによりも漁場に海藻が繁茂しアワビ・サザエが資源回復することにかかっています。生き生きとした海を取りもどさねばなりません。資源保護の活動でもあります。

海女さんたちの元気な声と笑いが響きわたる磯場の再生を目指して、一步を踏み出しました。

※固有名詞の表記や読み方は地域などによって異なり、また方言のためにあらわしくいものがあります。ここでは、この地方での一般的であると考えられる呼称・表記をとりました。